

ソーシャルワーク演習Ⅱ

専門教育科目／4単位／TS授業

担当教員 久留須 直也（テキスト部分担当） ※スクーリング部分については、複数の教員により行う。

■使用テキスト

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[社会専門]』 中央法規出版 2021

◆参考テキスト

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 13 ソーシャルワーク演習[共通科目]』 中央法規出版 2021
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 中央法規出版 2021
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』 中央法規出版 2021
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新 社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』 中央法規出版 2021
・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 6 ソーシャルワークの基盤と専門職』 弘文堂 2021
・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 7 ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）』 弘文堂 2021
・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 8 ソーシャルワークの理論と方法』 弘文堂 2021
・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 9 ソーシャルワークの理論と方法（専門）』 弘文堂 2021
・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 20 ソーシャルワーク演習』 弘文堂 2021
・福祉臨床シリーズ編集委員会（編）『新・社会福祉士シリーズ 21 ソーシャルワーク演習（専門）』 弘文堂 2021
・白澤政和・福山和女・石川久展（編）『社会福祉士 相談援助演習（第2版）』 中央法規出版 2015

講義概要・一般目標

ソーシャルワーク演習では、ソーシャルワーク機能の実践能力を有する社会福祉士を養成するため、講義で学習した知識や技術を統合し、具体的な事例を用いて実践的に、基礎的なソーシャルワーク機能を習得します。

また、社会福祉の相談援助に必要なコミュニケーション技術を習得することを目的とし、その技術に必要な自己・他者理解、受容・傾聴・共感・支持などの言語・非言語のコミュニケーション、面接技術、アセスメント・プランニング・評価方法など、社会福祉相談援助の技術を習得します。さらに、社会福祉の様々な対象へのソーシャルワーク実践として、ロールプレイ、事例検討等を通して展開していきます。

スクーリングにおいては、より実践に近い授業展開を実施します。

到達目標

- 1) ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
- 2) 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。
- 3) 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
- 4) 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
- 5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
- 6) 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解する。
- 7) 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。

評価方法

T部分：科目単位認定試験（レポート）により評価する。

S部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）により評価する。

学習指導

第1章 ソーシャルワーク演習の意義と目的

本章では、社会福祉士養成課程における「ソーシャルワーク演習(専門)」の意義と目的を踏まえて、その到達目標及び学習内容を確認するとともに、コンピテンシー(実践能力)を基盤とした学習、そしてアクティブ・ラーニングによる事例演習の学び方を理解する。とりわけ、社会福祉士が習得を目指すコンピテンシーとして、ソーシャルワークのコンピテンシーと多職種連携コンピテンシーを理解することは重要であり、事例演習の出発点となる。また、あらかじめ事例演習における学びのプロセスを理解しておくことによって、ソーシャルワーカーの疑似体験を積み重ねながら、段階を踏んでコンピテンシーを習得することを目指す。

第2章 ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）

ソーシャルワークの過程は、ケースの発見とエンゲージメント、アセスメント、プランニング、支援の実施とモニタリング、そして支援の終結と結果評価、アフターケアと展開される。本章では、一つの事例を通して、ソーシャルワークの展開過程とそこでの社会福祉士のアクション(活動)について学ぶ。具体的には、それぞれの過程において社会福祉士がどのような活動を行っているのか、どのようなソーシャルワークの価値や技術が必要とされているのかについて演習課題の取り組みを通して実践的に理解することを目指す。

第3章 実践的にソーシャルワークを学ぶ

本章では、第1節から第7節までの事例演習を通して、ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的技術として概念化し、理論化し、体系立てる能力を養うとともに、ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養うことを目指す。そのため、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について、実践的に習得することを目指す。地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みについて、さらには、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについても実践的に理解する。

【事例】

- 第1節 地域における社会的孤立への気づきと生み出す支援のあり方を考える
- 第2節 服役を繰り返す福祉ニーズのあるクライアントへの多機関・多職種による支援を考える
- 第3節 メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える
- 第4節 子どもや親のSOSに気づき、家族全体のレジリエンスを高めることを考える
- 第5節 クライアントが一番気になっている問題から支援を考える
- 第6節 災害支援からソーシャルワーカーの基本的姿勢と役割を考える
- 第7節 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える